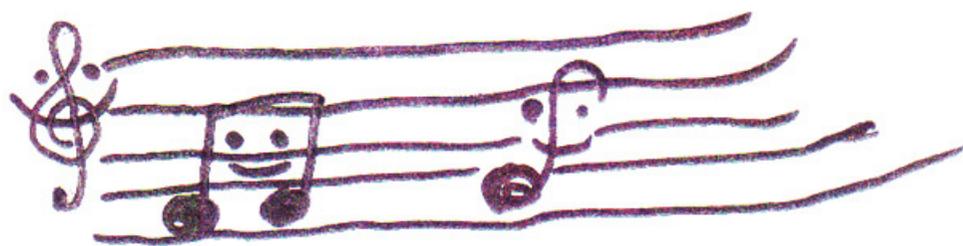


# とよたち★ 美肌通信 10月号Vol.75



# 今月号の 表紙



10月号の表紙は、「芸術の秋」

すきな演奏会の絵です!!

かっこいい指揮者さんの指揮に合わせて、  
楽しそうな音楽がきこえてきそうできね  
ダンスが趣味で、テニスが好きだそうです。

得意な事は、料理を作ること♡♡

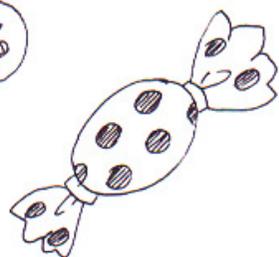
いつも元気で明るい男の子が"かいて

くたさいました!! 得意料理は、

なにかな〜? 気になりますね😊

院長はじめスタッフ一同

心より感謝いたします!!!



① 小学生時代(いったんたかは忘れた)担任の教師にやる気・元気・根気の3つの気が大切だと教わった。48才の私が若年層の人達をみて、つくづくこれが欠けている様に思えて仕方がない。特に仕事において強く感じる。若いのに生気がない。生気はいつどこで感じるものなのか。私は仕事でしか発揮することが出来ないと思っている。

② サミュエル・ウルマンの青春という詩がある。「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。優れた想像力、逞しき意思、燃ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ...」と。

③ 私には「こう生きたい」という思いがある。私にとって「こう生きたい」とは「そのためにこうゆう仕事をやる」ということとイコールである。子供の頃からこの価値基準を見つけたかと思う。偉人伝を読んできた。人間にとって知識というのは枝葉にすぎず、幹や根がこの部分に当たるのか感性(何をどう感じとるか)かと思うのです。そして感性とは真理を見分けること・善悪の判断・美しいものを美しいと感じられる力であり、この感性を育むには、どうゆう生き方が美しいのか、どうゆう考えが素晴らしいのかを

知ることが最も重要だ"と思うのです。

今の人達は「自分探し」と称して旅に出てみたり、転職を繰り返したりしますが、彼等に必要なのは自分探しの「お手本探し」だ"と思うのです。「こう生きたり」"と思う高い師を自分の心に持つことが生きる力を育むのです。そして、それこそが逆境の時にも己の進むべき方向に正しく導いてくれるのだ"と思います。

また、私の知る限り大変不思議なことに偉人達には、ある共通点を見り出すことが出来ます。

それは、「恩を知り、恩に報いる」という生き方です。ある作家の先生いわく「恩を知り、恩に報いる」という生き方は、世界から日本人が尊敬される理由であると言っていた。「恩」という言葉は外国語に訳し難いと言われ、この一文字に日本人らしさが凝縮されているという。同じ様な言葉に「おかげさま」があります。人は一人で生きているのではなく、自然や他人の善意や厚意を受け天に守られて生かされていると私は思っている。「おかげさま」もまた外国語には訳し難いようですが、こうした思い持つことが「恩を知る」ことであり「恩に報いる」生き方の出発点になると私は考えます。 院長・拝